



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4038 号 2017.11.24 発行

障害福祉職員も賃上げへ 介護に合わせ数百億円

福井新聞 2017年11月23日

政府、与党は23日、障害福祉分野の職員の賃金を引き上げる方向で検討に入った。安倍晋三首相は介護職員や保育士の処遇改善を表明しており、障害福祉でもこれに合わせて対応する必要があると判断した。

2019年10月の消費税増税分の使い道は年金、医療、介護、少子化対策の社会保障4分野に限定されているため、来月8日に閣議決定する2兆円規模の人づくり政策のパッケージとは別枠となる。数百億円が必要とみられ、今後、財源確保策を詰める。

障害福祉で働く職員は15年時点で全国に約91万人（事務員などは除く）。

厚労省、男性医師の両立支援へ 育児や介護、柔軟な働き方

人共同通信 2017年11月23日

男性医師の両立支援策

- ・医師以外の医療職も対象
- ・チーム医療やカバー体制を進め、休みやすい職場環境をつくる
- ・育児や介護サービスへの補助
- ・職場復帰のマッチングシステム

女性医師だけでなく、男性医師に関しても仕事と育児、介護との両立を支援しようと厚生労働省は23日までに、カバー体制の構築など柔軟な働き方を認める職場の環境整備に乗り出す方針を固めた。2018年度から全国の医療機関でモデル事業を実施する。同省の担当者は「育児や介護は本来、男女どちらも担うもの。誰もが働きやすい環境づくりを目指したい」としている。

厚労省によると、出産や育児のためにキャリアを中断した女性医師への支援は既に始まっているが、男性医師は対象外だった。新たなモデル事業は性別を問わず、看護師ら医師以外の医療職も対象とする。

「死にたい心」に寄り添うとは 聞き手・構成

磯村健太郎

朝日新聞 2017年11月23日

「京都自死・自殺相談センター」では、電話相談を模した体験学習を重ねている。中央の女性が相談する役、左の男性は聞き手役。右の男性はやりとりを観察している



=同センター提供

死にたい。消えたい。神奈川県座間市で9人の遺体が見つかった事件は、「死」を思うほどのつらさを抱える若者の姿を浮かび上がらせた。そのような心に寄り添うには、ど



うすればよいのか。京都市で7年以上、自死問題に取り組む民間団体がある。電話とメールで受ける相談は年に約4千件。その代表を務める僧侶の竹本了悟さん(39)の言葉は、ひとつのヒントになるかもしれない。

京都自死・自殺相談センター 竹本了悟さんに聞く

この団体はNPO法人「京都自死・自殺相談センター」(愛称・Sotto(そっと))。電話相談は毎週金・土曜の夜7時~翌朝5時半に受け付けている。夜から明け方は、死にたい気持ちが強まる時間帯とされる。

かかってくる電話の一言目は聞きづらいですよ。深刻な内容のときは特に。か細い声です。ずっとひとりきりで、人としゃべっていないのでしょうか。もしかしたら、すでに死ぬ準備をしているのかもしれませんが。だから受話器をとって最初に発するひと言から、精いっぱいぬくもりを伝えようと思います。

私たちは「死ぬより生きるほうがいい」という価値観を大前提にしていますよね。今回の事件でも『死にたい』というのは本当は『生きたい』のはずだ」というコメントに納得したくなる。でも当事者が「死にたい」というときは、やはりその方向に振れているのだと思いますし、まずはその心を感じ取ろうとすることが大切です。

こちらからは「そうか、死にたいんか……」としか言えないかもしれませんが。それでも、びたりと相手の横にいて心の波と一緒に揺られようと思います。小さいころ、親に痛いところを触れてもらっているだけで、痛みが和らぐ気がしたでしょう? けがをしている心も「手」を当てればぬくもりが伝わると信じています。

メールでの相談も受け付ける。6割近くが20代以下で、小・中学生と思われる相談もある。一つの返信案ごとに複数の相談員が話し合っって文面を練り上げる。

文字なので心を感じ取りづらい面はあります。ひと言だけ「死にたい」と書いたメールもけっこう多く、心配になります。何千字も書いてくる方もいますが、何往復でも応じます。心の居場所をつくるという意味で、臨む姿勢はメールも電話もまったく一緒です。

月に1度、つらさを抱える人が集まる「おでんの会」も開いている。食事をしたり、悩みを語り合ったり。参加した20代の女性はこんな感想をつづった。「おでんの会に来させてもらった時は楽しいひとときを過ごすことが出来ますが、一人になるとまた死にたい気持ちがわきおこってきます。でも、定期的におでんの会があることで、どうにか生きることができているように思います」

おでんの会は、しんどいときに「自分のことを分かってくれる場がある」という感覚を持ってもらうため。大海原を泳いでいて、浮いている丸太につかまってちょっと休憩する感じでしょうか。その程度しかできないけど、「その程度」が今の社会に必要とされているのだと思います。

生きることは誰にも代わってもらえない。生老病死(しょうろうびょうし)というように生きること自体が「苦」の一つです。人って本質的に孤独であるうえに、「誰にも分かってもらえない」という絶望的な孤独感はつらいですよ。

みなさんの職場や家族にも「死にたい気持ち」を抱える人がいるかもしれません。気付かれまいと隠している場合も多いでしょう。もし打ち明けられたら、あるいはSOSに気付いたら、丁寧に接してください=対応例参照。何かせねばと気負わなくていい。他者を丸抱えすることはできないものです。ただ、温かく隣にいてあげてほしいと思います。(聞き手・構成 磯村健太郎)

「死にたい」と打ち明けられた際の対応例

▽戸惑っても話をそらさずに、まずは丁寧に聞く

▽死にたい気持ちを大事に受け取り、「死んではだめ」と否定しない

▽「こうしたら」と助言するよりも一緒に考える

(同センターによる)

《京都自死・自殺相談センター》 竹本さんら浄土真宗本願寺派の僧侶が中心となって2010年に設立。ただし宗教色はない。去年は電話相談が2543件、メール相談は1

382件。相談用の電話番号は075・365・1616。詳しくはホームページ (<http://www.kyoto-jsc.jp>) で。

障害者暴行で理事長が虚偽報告か 法人本部を捜索 宇都宮

NHK ニュース 2017年11月23日

宇都宮市の障害者支援施設で入所者が暴行され大けがをした事件で、警察は、施設を運営する法人の理事長が事件後の市の調査に対し「虐待や暴行は把握していない」とその報告をしていた疑いがあるとして、23日、障害者総合支援法違反の疑いで法人の本部を捜索しました。

ことし4月、宇都宮市の障害者支援施設「ビ・ブライト」で、知的障害のある入所者の男性に暴行を加えて全治およそ6か月の大けがをさせたとして、施設の元職員ら2人が逮捕され傷害の罪で起訴されました。

その後の警察の調べで、施設を運営する社会福祉法人「瑞宝会」の理事長が、事件後に行われた市の調査に対し、うその報告をしていた疑いがあるとして、警察は23日午前8時すぎから障害者総合支援法違反の疑いで法人の本部を捜索しました。

これまでの警察の調べで、法人の内部調査に対し「元職員が暴行しているのを見た」と証言した職員がいたことがわかっていますが、捜査関係者によりますと、虐待があったかどうか市が問い合わせた際、理事長は「虐待や暴行は把握していない」と回答していたということです。警察は、押収した資料などを分析し、詳しい経緯を調べることにしています。



障害児の学び支え50年 京都・向日が丘支援学校

京都新聞 2017年11月23日

開校初期に撮影された校舎の写真。通学バスを子どもたちが見送っている（向日が丘支援学校提供）



京都府長岡京市井ノ内の府立向日が丘支援学校が今年、創立50周年の節目を迎えた。肢体不自由の子どもが通う府内初の養護学校として開校。当初は府全域から子どもが集まり、最重度の障害から発達障害まで幅広い子どもの特性に応じた教育を展開してきた。施設が老朽化する中、府教育委員会は全面的な建て替えも

視野に準備を進める。23日に同校で記念式典を催し、歩みを振り返る。

向日が丘支援学校は、養護学校での教育が義務化される12年前の1967年4月に開校した。当時の学校要覧は「明るく、たくましく、のびのびと自立をめざす力と和ぐわしき友愛に満ちた学園に育てたい」と記す。

78年に丹波養護学校（当時）が開校するまでは府全域が校区で、子どもたちが暮らす寄宿舎を設けた。79年には知的障害児の受け入れを開始。障害が重複する最重度の子どもへの学びやにもなった。

乙訓圏域障がい者自立支援協議会の事務局、能塚隆裕さん（61）は「乙訓の在宅福祉

の充実を学校が引っ張ってきた」と話す。向日が丘支援学校を中心とする療育環境を求めて、乙訓へ障害児のいる世帯の引っ越しが増加。卒業後の地域生活を支える受け皿の拡大に結びついた、と指摘する。

同校によると、現在、小学部一高等部で145人が学び、近年は発達障害のある子どもの入学が増えている。国語や数学の他、体験活動を重視した学習、コミュニケーション能力や運動機能の向上に取り組む。地域社会での自立生活を見据え、地元との交流にも力を注いでいる。

一方、学校施設は創立以来、抜本的な改修がなく、府教育委員会は建て替えも含めた工事手法の検討や測量など準備に着手済み。府や市は、同校一帯に高齢者や障害者の福祉施設を整備する構想の策定に向けて作業を進めている。

平岡克也校長は「18歳以降の人生の可能性を切り開き、歩み続ける力を養うことに、さらに努めたい」と話す。

23日の式典では、節目を祝って制作した記念のロゴマークを発表し、合唱を披露する。来年2月9日の学校公開日には、子どもたちの作品を展示する他、学校の歴史を写真などで紹介する計画だ。

乗馬体験の馬が暴れて10人けが 島根の障害者支援施設



NHK ニュース 2017年11月23日
23日午後、島根県浜田市にある障害者の支援施設で、乗馬体験のための馬が暴れて10人が軽いけがをしました。警察が当時の詳しい状況などについて調べています。

23日午後0時45分ごろ、島根県浜田市の障害者支援施設「桑の木園」で行われていた外部の人も参加できるイベント会場で、乗馬体験のために木につながれていた1頭の馬が暴れだし、人混みの

中に突っ込みました。

警察や消防によりますと、馬に体当たりされたり避けようと転んだりして、0歳の乳児から80代のお年寄りまで男女合わせて10人が病院に運ばれました。

当初は現場では骨折した人もいたと見られましたが、病院で医師が改めて診察したところ、いずれも打撲などの軽いけがだったということです。

警察によりますと、馬は当時、会場近くの木の枝に手綱でつながれ、乗馬のインストラクターがそばにいましたが、木の枝が折れたことで馬が暴れだし、多くの人が集まっていた餅まきの会場に突っ込んだということです。

馬はメスで体長が2メートル余り、体重はおよそ400キロから450キロほどあり、近くのレジャー施設で飼育されているうちの1頭でした。

警察は馬が暴れ出した当時の詳しい状況などについて調べています。

多彩な障害者アート見て 20年東京パラリンピック1000日前イベント

東京新聞 2017年11月23日

県内の障害者アーティストによる「アートフェスティバル」が二十五日～十二月三日、入間市仏子の市文化創造アトリエ・アミーゴで開かれる。二〇二〇年東京パラリンピックの千日前イベントとして企画され、アーティストによるコンサートや競技用義足の体験会などの関連イベントも予定されている。（加藤木信夫）

アート展は、県障害者アートフェスティバル実行委員会の主催。二科展入選などの実績を持つ障害者十二人が約七十点を展出し、各日午前十時～午後五時に開催。絵画、ジオラマ、スタンドグラス、粘土像、織物など多彩な作品が並ぶ。入場無料。

吉岡駿さん（入間市提供）

関連イベントとしてアート展と同期間、パラリンピックの射撃競技紹介や競技用車いすのパネル展示がある。競技用義足の体験会（二十五、二十六日）、パラリンピック競技「ボッチャ」の体験会（十二月二日）なども行われる。

各種コンサート・ライブも予定され、十二月三日には車いすのシンガー・ソングライター森圭一郎さん（熊谷市生まれ）、知的障害を伴う自閉症のピアニスト吉岡駿（はやき）さん（県立特別支援学校高等部三年）が登場する。先着順の定員制で入場料はいずれも五百円。

会場は西武池袋線仏子駅北口から徒歩五分。問い合わせは入間市文化創造アトリエ・アミーゴ＝電04（2931）3500＝へ。



病に苦しむ人に光 難病のきょうだい追った番組



朝日新聞 2017年11月23日
歩行訓練をする妹と兄＝YTS山形テレビ提供

日本放送文化大賞（日本民間放送連盟主催）の準グランプリに選ばれたYTS山形テレビの番組「YTSスペシャル 希望の一滴～希少難



病に光！ここまで来た遺伝子治療～」（2016年放送）は「患者、親、医師らのそれぞれの立場を巧みな構成で効果的に表現し、病に苦しむ人に希望を与えた」と評価された。プロデュースを担当した庄司勉さん（60）は「普段の3分、5分のニュースでは伝えられないことを伝える力がドキュメンタリーにはある」と話す。12月30日午前9時半からYTSで再放送される予定。

受賞作は、山形県南陽市に住む「AACDC欠損症」患者の兄と妹を追った番組。AACDC欠損症は、神経伝達物質のドーパミンなどの合成に必要な酵素「AACDC」がつくれず、体をうまく動かすことができない難病で、世界でも130人ほどの報告しかないという。

兄が7歳、妹が4歳だった07年から9年間取材を続けた。寝たきりだった2人が、遺伝子治療薬によって物をつかみ、電動車いすを操作できるようになっていく様子を追った。

撮影は数百時間。何度も通ううち、いつも前向きな母親が、発作がひどかったころの話をぼつりとこぼした。庄司さんは「話してもいい相手と思ってもらえたのかな」と感じたという。自宅だけでなく病院や学校、リハビリ施設などでも取材をした。「長期間取材したことで、変化を伝えられる映像になった。普段のニュースは分かりやすく簡略化されがちだが、物事の核心を伝えるには時間が必要」と話す。

最も印象に残っているのは、症状がよくなった後に2人と対面した医師が、声をうわらせて喜ぶ場面だ。「気持ちが伝わってきた。患者と家族、医師、学校の先生らが同じ方向を向いたことで、いい成果が生まれたんだと感動した」

2人への取材は、今後も続けたいという。「回復の様子を伝えていきたい」（青山絵美）

楽しい空間を共有しよう 障害者と地域住民がダンスで交流



河北新報 2017年11月24日

音楽に合わせて体を揺らす参加者

障害者と地域住民が踊りを通じて交流する「ダンスパラダイス2017 inとめ」が23日、登米市南方農村環境改善センターであった。

登米市や大崎市から障害者や家族、ボランティアら計約100人が参加し、ミラーボールが回る会場でリズムカルな音楽に合わせて踊った。メイクやネイル、マッサージのサービス、貸衣装による変身コーナーもあった。

車いすで参加した登米市の及川節夫さん（55）は「みんなで踊ると気分がいい。日頃の鬱憤（うっぷん）を晴らしに来た人も多いと思う」と話した。

県障害者福祉センターが主催し、登米市と市社会福祉協議会が共催した。「障害のある人もない人も楽しい空間を共有しよう」と、宮城県内各地持ち回りで開催され、今年で35回目。

松下さんら県内3人と1校入賞 新聞記事感想コンクール 静岡

静岡新聞 2017年11月24日

日本新聞協会は23日、第8回「いっしょに読もう！新聞コンクール」の入賞者を発表した。静岡県内からは優秀賞に松下星矢さん（静岡県立中央特別支援学校高等部3年）、奨励賞に鈴木冴香さん（同）、山北裕介さん（静岡聖光学院高2年）、学校奨励賞に静岡市立城山中が選ばれた。

全国の小中高生が家族や友人と記事を読み、感想や意見を寄せた。47都道府県から4万7699点の応募があり、小中高各部門ごとに最優秀賞1点、優秀賞10点、奨励賞120点などを選定した。団体応募386校からは優秀学校賞15校、学校奨励賞143校を決めた。

松下さんは静岡新聞に掲載された「障害者の教育を受ける権利」に関する記事を題材に選んだ。生まれつき脳性まひがある松下さんは記事を読み、「自分と同じように普通学校で学びたい障害者がいることを知った。障害の有無にかかわらず、本人が行きたいと思った学校へ行けることが大切」と意見を記した。

最優秀賞には、埼玉県熊谷市立熊谷西小1年の新井美結さん（7）と、東京都の跡見学園中2年の中山桜さん（13）、埼玉県立川越女子高2年の芦川琴乃さん（17）、「HAPPY NEWS賞」は、和歌山大学教育学部付属小2年の岩田凜咲さん（8）が選ばれた。

西予・野村学園 恒例のカレンダー「どろんこのうた」力作7点

愛媛新聞 2017年11月24日

障害者支援施設・障害児入所施設「野村学園」（西予市野村町野村）の園生による版画詩「どろんこのうた」の2018年版カレンダーがこのほど、完成した。日常生活の一コマなどが大胆な絵や素朴な文章で表現されている。

学園によると、約40年前に詩や絵を粘土板に描いたのが「どろんこのうた」の始まり。作品や学園を広く知ってもらおうとカレンダーを製作しており、現在は約20人が月1回、作品制作に取り組んでいる。今年は20～40代の男女7人の作品が選ばれた。

表紙「せつぶん」は、版木いっぱい力強い彫りで鬼を描いた。「わからん」は「わからん わからん し(詩)がわからん」と、短い表現に哲学めいた雰囲気が漂う。



市内の道の駅「どんぶり館」や野村地域の「乙亥の里」、農業公園「ほわいとファーム」などで販売している。版画詩カレンダーを持ち自分の作品のページを開く園生

子育て、怒鳴らず、叩かず どう実現？
見市紀世子

朝日新聞 2017年11月24日
「声のかけ方を変えると子どもの反応が変わる」と話す高

祖常子さん

言うことを聞かない子どもを怒鳴ったり、叩(たた)いたりしてしまう——。こんな悩みを抱えている人に向けて、育児情報誌「miku」の高祖常子(こうそときこ)編集長(57)が10月に「感情的にならない子育て」(かんき出版)を出した。「まず、『怒鳴らない、叩かない』と決めてみて」と呼びかける。

高祖さんは保育士の資格を持ち、児童虐待防止全国ネットワークの理事も務める。2010年にスウェーデンの虐待防止の取り組みを取材したのがきっかけで、「どならない・たたかない子育て講座」を開いてきた。自らの3人の子育て体験を含め、子どもとのコミュニケーションの取り方を伝授。6年間で約2万人に伝えてきたことを本にまとめた。

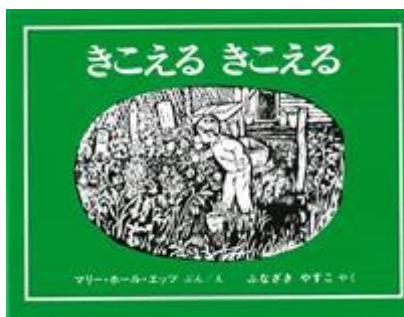
子どもを怒鳴ったり叩いたりすることについて、高祖さんは「怒鳴るのも叩くのも、恐怖や不安で子どもをコントロールすること」と注意を呼びかける。子どもに手を焼いたときは、ストレスを爆発させて怒るのではなく、「叱る」こと。子どもに「NO」の基準を与えるように心がけるとよいという。



『きこえる きこえる』子供たちの「言葉にならない言葉」を感じて

産経新聞 2017年11月24日

『きこえる きこえる』(マリー・ホール・エッツ文・絵、ふなざきやすこ訳)



平成19年にブッキング(現・復刊ドットコム)から刊行された『きこえる きこえる』(マリー・ホール・エッツ文・絵、ふなざきやすこ訳)は、“かかわり”に言葉が全てではないことを教えてくれます。白黒の2色で描かれたぬくもりのある線は、互いの視線や表情、体の動きをより鮮明にしています。

私たちは言葉を使わない赤ちゃんの気持ちを分かろうとするとき、泣き声や吐息、表情や手足の動きに注意を向け、応答します。しかし、子供が言葉を話し始めると、大人は子供に「お口(言葉)で言わなきゃ分からないでしょ」と思いを言葉にすることを求めます。

言葉は人間だけが持つ能力であり、自分の思いを明確に言葉にすることで対話が可能に

なります。その一方で、互いの言葉にならない言葉を感じ取り、相手のことを一生懸命に分かろうとすることも対話です。そこでは「感じる」という分かり方が重要になります。

わが家の子供たちが小さかった頃、保育園のお迎えから帰宅するやいなや、私はすぐに家事を始めなければなりません。ある日、5歳の息子が2歳の妹にそっと話す声が聞こえました。「今、ママの眉毛がこう（への字）になって、ここ（眉間）に線が入っているでしょ。今はダメだから、お兄ちゃんが読んであげるよ」

娘が絵本を持って私のそばに来たことに、私は気づかずにいました。息子は私の必死の形相からその場の雰囲気を感じ、私に代わって妹の思いに答えていたのです。息子の言葉に、はっとさせられた瞬間でした。

私たちは、相手の表情やしぐさ、全体の醸し出す雰囲気から心の動きを感じ取ることができます。それには、ゆったりとした気持ちで注意（attention）を向け相手に心を寄せるとき、いろいろな言葉が向こうから「きこえてくる」のではないのでしょうか。“TALKING WITHOUT WORDS”という原題が「きこえる きこえる」と訳されていることに納得します。

《ぼくは かあさんのところに はしって行って、うでを まわして だきつきます。「だいすき！」 なにもしゃべらなくても、ぼくの ことばが かあさんに つたわります。》

絵本の中の文です。

読者の皆さまには、子供たちのどんな言葉がきこえているでしょうか。（国立音楽大准教授 林浩子）



精神障害をもつ人の親なき後は 知恵と経験をNPOが書籍に

産経新聞 2017年11月23日

「精神障害をもつ人のための 親なき後に備える」

精神障害がある本人や家族の多くが漠然とした不安を抱いている「親亡き後」の本人の暮らし。

親の死を実際に経験したり、そのために備えたりしている本人や家族、専門家ら計40人の体験やアドバイスを集めた本「精神障害をもつ人のための 親なき後に備える」0を、障害の啓発や当事者支援に取り組む認定NPO法人地域精神保健福祉機構（略称コンボ、千葉県市川市）が発行した。

「何とかやれている」「こんなことで困った」などの体験談の紹介に加え、コンボの会員に対するアンケートを基に、金銭的なこと、家の管理、人付き合いや支援サービスなど9つの分野について、本人と親であらかじめ話し合っておきたい項目を一覧表にまとめた。

アンケートで、不安に思う人が多い項目として浮かんだ「生活力」「経済力」「寂しさ」については、当事者のさまざまな試みを紹介。総じて、本人ができる範囲を少しずつ広げること、人や支援機関とのつながりを保つことの大切さを強調する内容になっている。

準備の意外な落とし穴を語った経験談もある。母親を早く亡くし、祖母に育てられた50代後半の女性。祖母は女性らに財産を分ける遺言を書いていたが、日付と押印がなく法的に無効だった上、相続人以外の名前まで書かれていた。「遺言をするなら法的に有効かをきちんと確認してほしい」と女性は話す。

本はA5判、124ページ。1296円。書店販売はしないため、購入は直接コンボへ申し込む。（電）047・320・3870。



月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行